

2012年 建築甲子園結果

成績	高校名	応募作品タイトル
優勝	山梨県立甲府工業高等学校	甲州ぶどう雁木通り
準優勝	滋賀県立安曇川高等学校	外来魚。～新しい地域の暮らし～
ベスト8 審査委員長特別賞	三重県立伊勢工業高等学校	移住者の家
ベスト8	群馬県立前橋工業高等学校	朔太郎の想い 農の再生
"	埼玉県立春日部工業高等学校	小川に集うまち～地域産業の継承～
"	神奈川県立神奈川工業高等学校	川沿いの四季を楽しむシェアハウス
"	大分県立大分工業高等学校	『地域で暮らしたい しかし、地震が、津波が・・・そこで僕たちの決断』
"	宮崎県立日向工業高等学校	やぐらのある暮らし
奨励賞	北海道札幌工業高等学校	北の快適住まい
"	青森県立青森工業高等学校	地域の山をみんなで守プロジェクト
"	宮城県古川工業高等学校	スローライフ・憧れの田舎暮らし 農家民宿“結”
"	秋田県立横手清陵学院高等学校	地域って何？ つながりでしょ
"	山形県立米沢工業高等学校	スマート LIFE ～時代を遡る未来型住宅～
"	福島県立会津工業高等学校	栄町 Walk through・・・
"	栃木県立宇都宮工業高等学校	きぶなと光のページェント
"	千葉県立市川工業高等学校	海をながめる暮らし
"	長野県長野工業高等学校	野尻の家
"	新潟県立上越総合技術高等学校	家族・近隣住民の交流そしてプライバシー (春夏秋冬における住環境機能の提案)
"	静岡県立島田工業高等学校	切磋琢磨 目指せ！B-1 日本一
"	富山県立高岡工芸高等学校	水郷～水と共に生きる～
"	金沢市立工業高等学校	町がつくる家
"	福井県立武生工業高等学校	People in the box
"	京都市立伏見工業高等学校	舟入につくる小さな都 ～歴史薫る川床の家～
"	大阪市立都島工業高等学校	S・M・E～世代を繋げる3つの輪
"	兵庫県立豊岡総合高等学校	GBE house
"	奈良県立吉野高等学校	吉野川を愛でる家
"	和歌山県立和歌山工業高等学校	色の付いたペンシルハウス
"	鳥取県立鳥取工業高等学校	発電傘
"	広島県立福山工業高等学校	The egg of wish ～未来の福山のために～
"	徳島県立徳島科学技術高等学校	若者の集うシェアハウス～土間のある家～
"	香川県立多度津高等学校	SHIKOKU88物見やぐら～旅×空間＝出会い～
"	愛媛県立松山工業高等学校	いくぞ我らは営農集団！！
"	大牟田高等学校	高齢者に豊かな空間を
"	佐賀県立佐賀工業高等学校	～水路に集う物語～街の駅「よってかんね」
"	長崎県立長崎工業高等学校	「よかよ 長崎、坂んまち」
"	熊本県立熊本工業高等学校	ウッドデッキと屋根の家
"	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	「FLAG」
"	沖縄県立浦添工業高等学校	時間と空間の共有



2012
高校生の

「建築甲子園」

～地域のくらし～

後援 国土交通省・公益社団法人 全国工業高等学校長協会

審査総評

審査委員長
片山和俊
(東京藝術大学名誉教授)

審査員
高橋伸明 (教育事業副委員長)
森崎輝行 (森崎建築設計事務所)
永井香織 (日本大学准教授)
関 伸行 (関建築設計室)

楽しみにしていた建築甲子園。今年3回目を迎え審査会場に並べられた作品パネルを見ると、これまでに比較して表現が揃っているように感じられた。今までの経験や情報収集の成果と思われ、理解しやすく審査をスムーズに進めることができた。大胆で個性的な表現が減って面白くないという意見があるかも知れないが、これをベースに自分たちの提案意図を、より鮮明に表現すれば鬼に金棒に近づくのではないだろうか。

今回の作品点数は増えて、全国の38道府県から集まった38点。提案内容を大凡分類してみると、重複はあるが5つ位のグループに分けられそうである。一番多かったのは1軒の住居を対象として、その性格に様々な要素を加味したもの。民宿経営、海や水という自然の中での立地、あるいは移住というテーマなどから住居が考えられていた。次のグループは大小住居群に農業や水路、坂、交流を絡ませたもの。共に住居から地域に繋げ、地域を顕在化させようという試みであった。そして3つ目は、今の日本の孤化する家族への危惧から、高齢者若者の世代間交流やシェアハウスという住まい方の提案が見られた。が、いずれの提案も1軒1軒の内部の住まい方に工夫は見られたが、地域へ広がる視点を有することは難しかったようである。さらに傘や色彩、照明などによる装飾的な提案が見られたが、イベント的な提案には一過性の弱さがつきまとい、対戦を勝ち抜き強さはなかった。やはり説得力があったのは、地域のひろがりや総体に取組み、そこから課題やイメージを膨らませた提案。単に伝統的な空間や形態、営みの踏襲ではなく、それらを踏まえつつ未来につながる仕組みや、地域へのひろがりを予感させる内容のものは強かった。

審査は各審査委員が、テーマの理解度、具体性、独創性と表現力の4点から各

作品を評価し、例年のようにトーナメント形式で審査を進めた。11「小川に集うまち」に好感をもち、10「朔太郎の想い」は商店街と農との間に距離を感じ、もう一步慎重さが欲しい44「地域でくらしたい」は、夫々準々決勝で、地域を捉えにくい東京・大阪など大都会から参加の14「川沿いの四季を楽しむシェアハウス」の着想の面白い提案は、準決勝で破れた。14は、土手内部を構成する住居群が羅列的で、川を挟んだ土手全体の断面表現が物足りなく、自分たちの発想にもう少し拘り、その場所らしさを豊かにできれば良かったのではないだろうか。惜しい。

勝ち抜いた中で優勝案は、当初印象はあまり強くなかった。何回か対戦するうちに提案に無理がなく、こうなれば面白い地域環境になりそうだと思わせられスルスルと勝ち抜いた。一方、準優勝案は外来魚ということば、キリッとした建築の形態、雪室を内包した魅力的な断面など、優勝案に匹敵する質をもっていたが、鮮明であるだけに周囲に広がる地域の住居や暮らしから浮かび上がっているように見え、次席となった。

そして審査委員長特別賞は、もっとも多かった住居提案の内から移住をテーマに掲げた案とした。過疎を逆手に取った提案で、1軒の家を木取りから考え、環境との調整から分棟にするなどアイデアに満ちており、かつその表現が素晴らしく、特別賞にしたいと思わず宣言してしまった。

今回の審査会は新しい審査員を迎え緊張気味に始まったが、例年のように対戦を進めるうちに、各提案への理解が進み活発な議論を経て、自然に判断が固まったことを最後に報告しておきたい。

(審査委員長 片山和俊)



山梨県立甲府工業高等学校

甲州ぶどう雁木通り



滋賀県立安曇川高等学校

外来魚。～新しい地域の暮らし～



BEST8 入賞

高校名	応募作品タイトル
群馬県立前橋工業高等学校	朔太郎の想い 農の再生
埼玉県立春日部工業高等学校	小川に集うまち～地域産業の継承～
神奈川県立神奈川工業高等学校	川沿いの四季を楽しむシェアハウス
大分県立大分工業高等学校	『地域で暮らしたい しかし、地震が、津波が・・・そこで僕たちの決断』
宮崎県立日向工業高等学校	やぐらのある暮らし

BEST8 ・審査委員長特別賞

高校名	応募作品タイトル
三重県立伊勢工業高等学校	移住者の家

奨励賞

高校名	応募作品タイトル
北海道札幌工業高等学校	北の快適住まい
青森県立青森工業高等学校	地域の山をみんなで守プロジェクト
宮城県立古川工業高等学校	スローライフ・憧れの田舎暮らし 農家民宿 “結”
秋田県立横手清陵学院高等学校	地域って何? つながりでしょ
山形県立米沢工業高等学校	スマート LIFE ～時代を遡る未来型住宅～
福島県立会津工業高等学校	栄町 Walk through...
栃木県立宇都宮工業高等学校	きぶなと光のページェント
千葉県立市川工業高等学校	海をながめる暮らし
長野県長野工業高等学校	野尻の家
新潟県立上越総合技術高等学校	家族・近隣住民の交流そしてプライバシー (春夏秋冬における住環境機能の提案)
静岡県立島田工業高等学校	切磋琢磨 目指せ! B-1 日本一
富山県立高岡工業高等学校	水郷～水と共に生きる～
金沢市立工業高等学校	町がつくる家
福井県立武生工業高等学校	People in the box
京都市立伏見工業高等学校	舟入につくる小さな都 ～歴史薫る川床の家～

高校名	応募作品タイトル
大阪市立都島工業高等学校	S・M・E～世代を繋げる3つの輪
兵庫県立豊岡総合高等学校	GBE house
奈良県立吉野高等学校	吉野川を愛でる家
和歌山県立和歌山工業高等学校	色の付いたペンシルハウス
鳥取県立鳥取工業高等学校	発電傘
広島県立福山工業高等学校	The egg of wish ～未来の福山のために～
徳島県立徳島科学技術高等学校	若者の集うシェアハウス～土間のある家～
香川県立多度津高等学校	SHIKOKU88 物見やぐら～旅 × 空間＝出会い～
愛媛県立松山工業高等学校	いくぞ我らは営農集団!!
大牟田高等学校	高齢者に豊かな空間を
佐賀県立佐賀工業高等学校	～水路に集う物語～街の駅「よってかんね」
長崎県立長崎工業高等学校	「よかよ 長崎、坂んまち」
熊本県立熊本工業高等学校	ウッドデッキと屋根の家
鹿児島県立鹿児島工業高等学校	「FLAG」
沖縄県立浦添工業高等学校	時間と空間の共有

※高校生の建築甲子園は、公益社団法人全国工業高等学校長協会のジュニアマイスター制度の認定プログラムです。

出場校の全作品と審査評は(公社)日本建築士会連合会のホームページでご覧いただけます。

2012年 第3回建築甲子園審査評

建築甲子園総評

建築甲子園審査委員長 片山和俊

楽しみにしていた建築甲子園。今年3回目を迎え審査会場に並べられた作品パネルを見ると、これまでに比較して表現が揃っているように感じられた。今までの経験や情報収集の成果と思われ、理解しやすく審査をスムーズに進めることができた。大胆で個性的な表現が減って面白くないという意見があるかも知れないが、これをベースに自分たちの提案意図を、より鮮明に表現すれば鬼に金棒に近づくのではないだろうか。

今回の作品点数は増えて、全国の38道府県から集まった38点。提案内容を大凡分類してみると、重複はあるが5つ位のグループに分けられそうである。一番多かったのは1軒の住居を対象として、その性格に様々な要素を加味したもの。民宿経営、海や水という自然の中での立地、あるいは移住というテーマなどから住居が考えられていた。次のグループは大小住居群に農業や水路、坂、交流を絡ませたもの。共に住居から地域に繋げ、地域を顕在化させようという試みであった。そして3つ目は、今の日本の孤化する家族への危惧から、高齢者と若者の世代間交流やシェアハウスという住まい方の提案が見られた。が、いずれの提案も1軒1軒の内部の住まい方に工夫は見られたが、地域へ広がる視点を有することは難しかったようである。さらに傘や色彩、照明などによる装置的な提案が見られたが、イベント的な提案には一過性の弱さがつきまとい、対戦を勝ち抜く強さはなかった。やはり説得力があったのは、地域のひろがりや総体に取組み、そこから課題やイメージを膨らませた提案。単に伝統的な空間や形態、営みの踏襲ではなく、それらを踏まえつつ未来につながる仕組みや、地域へのひろがりやを予感させる内容のものは強かった。

審査は各審査委員が、テーマの理解度、具体性、独創性と表現力の4点から各作品を評価し、例年のようにトーナメント形式で審査を進めた。11「小川に集うまち」に好感をもち、10「朔太郎の想い」は商店街と農との間に距離を感じ、もう一步慎重さが欲しい44「地域でくらしたい」は、夫々準々決勝で、地域を捉えにくい東京・大阪など大都会から参加の14「川沿いの四季を楽しむシェアハウス」の着想の面白い提案は、準決勝で破れた。14は、土手内部を構成する住居群が羅列的で、川を挟んだ土手全体の断面表現が物足りなく、自分たちの発想にもう少し拘り、その場所らしさを豊かにできれば良かったのではないだろうか。惜しい。

勝ち抜いた中で優勝案は、当初印象はあまり強くなかった。何回か対戦するうちに提案に無理がなく、こうなれば面白い地域環境になりそうだと思わせられスルスルと勝ち抜いた。一方、準優勝案は外来魚ということば、キリッとした建築の形態、雪室を内包した魅力的な断面など、優勝案に匹敵する質をもっていたが、鮮明であるだけに周囲に広がる地域の住居や暮らしから浮かび上がっているように見え、次席となった。

そして審査委員長特別賞は、もっとも多かった住居提案の内から移住をテーマに掲げた案とした。過疎を逆手に取った提案で、1軒の家を木取りから考え、環境との調整から分棟にするなどアイデアに満ちており、かつその表現が素晴らしく、特別賞にしたいと思わず宣言してしまった。

今回の審査会は新しい審査員を迎え緊張気味に始まったが、例年のように対戦を進めるうちに、各提案への理解が進み活発な議論を経て、自然に判断が固まったことを最後に報告しておきたい。

<優勝> No.15：山梨県立甲府工業高等学校「甲州ぶどう雁木通り」

この計画の一番の魅力は分かりやすいことである。

昔は養蚕のために「突き上げ屋根」形式の民家が生まれたが、その民家群の町の歩道に当たる部分に、ぶどう棚を掛け「ぶどう棚雁木」による心地よい日影を作ろうというもの。新潟県高田の雪国の雁木にヒントを得て、地域のぶどうを育てることを町の空間的な構成に利用しようとする試み。6軒に1カ所は山梨に残る助け合い「無尽」会などが行われる、ぶどう棚のコミュニティスペースが設けられている。

現代の集落構成は、敷地という私と道路という公に分かれており、その間の曖昧な関係の欠如が外部空間を魅力のないものになっている。ここでの提案は、そこにぶどう棚ゾーンという住民が提供する共の領域を持ち込もうとするもの。加えてこの案によって、これまでぶどう棚はぶどう棚、道筋の空間は道筋の空間と分かれていたものが、一体に編み込まれた新しい地域の空間のひろがりとしてイメージできるようになった。こうすることによって新たな問題が起きるかも知れないが、現実化に向けて後押しをしたい計画であるに違いない。おめでとう。素直で分かりやすい案で、空間体験を先行させる読む側に立った説明の構成もよかったよ。(片山)

<準優勝> No.25：滋賀県立安曇川高等学校「外来魚。～新しい地域の暮らし～」

滋賀県高島市マキノ町は、琵琶湖湖岸にあって四季の変化が美しく、名所や旧跡の文化と里山の風景を残した、農業・漁業・林業を営む地域。そこに琵琶湖漁業や生態系に歪みを生じさせる外来魚の問題が生じ、県は大掛かりな外来魚捕獲駆除に取り組んでいるという。その一方で害魚として排除するだけでなく、食育による外来魚利用を指向するなど、琵琶湖地方に昔からあった「つくり育てる漁業と漁業者の育成」に取り組んでいく、その中心となる拠点施設計画を提案した。新しい地域の暮らしを発想したところがいい。

湖岸に建つであろう建物の構成が明快で、水平線の広がる湖岸の風景の中にキリッと建つ姿を想像すると、上記の意図と仕組みをリードしていくに相応しい、頼もしい姿が目に見え、特に図面の真中に置かれた断面は、一方が湖水、他方が陸上で、この建物の中で行われる仕組みが明快に表現され魅力的である。

トーナメントを順調に勝ち進んだが、この拠点施設の構成が明快であるだけに、周辺に広がる住宅や営まれる暮らしとの距離が気になるとの指摘があり、残念ながら決勝戦で破れてしまった。とは言え、例年素晴らしい作品をまとめてきており心からの讃辞を送りたい。再びのリベンジを期待しているよ。(片山)

<ベスト8・審査委員特別賞> No.21：三重県立伊勢工業高等学校「移住者の家」

小さくて静かな計画をここまで高めたことを何よりも評価したい。対象の町の80%が山村で、林業を主として平坦地で農業を営み、人口の半分が65歳以上の過疎地域での提案である。

ところが何故か所帯数が増えていることから、過疎化対策の「空き家バンク」制度の存在を知り、そこから計画を発想し組立てたもの。建築面積を押さえた安価な新築を意図して狭小住宅を発想し、1本の木からどれだけの建材が取れるかを検証するために具体的に木取りを計画する一方、自然環境の中での気持ちのよい家のあり方を考え4棟の分棟としつつ、天井裏に展望部屋を取るなど、単なる小さな箱にならない工夫を施している。しかも移住者家族が孤立しないように、わさび田でわさびを育てる仕事を用意して地元の人たちとのコミュニケーションを図りやすくするなど、計画は緻密で用意周到である。

そして何よりも図面表現が的確でいい。はじめは見過ごしていたが、1回目についたら引込まれたしまったと白状しておこう。老婆心からだが、このうまさ将来大きく育って小さくまとまらないよう祈っている。(片山)

<ベスト8> No.10：群馬県立前橋工業高等学校「朔太郎の想い」

群馬県南部にある前橋市において、近年の経済社会情勢の変化を受け、その中心市街地が衰退していくことへの危機感を持ち、ある商店街を対象にして、同市のキャッチフレーズである「水と緑と詩のまち」にふさわしい地域として再生しようとする提案である。

提案は5つの構想からなり、1.商店街の通りに「緑農ベルト」を創り、空き店舗を「農の間」を持つ店舗に改装し、農を活かした再生を図る。2.広瀬川の清流を商店街に引き込み、「緑農ベルト」を維持し、親水性を高める。3.生糸や繭をイメージしたデザインを織り交ぜ、「生糸のまち」の息吹を継承する。4.商店街通りに暗い印象を与えているアーケードを、蕙の日除けと「かしぐね」風の風除けにより再生する。最後に、前橋出身で詩人である萩原朔太郎の想いに心を通わせている。

前橋の歴史を江戸時代から俯瞰し、空っ風に対する屋敷林「かしぐね」、生糸の一大生産地、大正時代の近代詩人など地域固有のキーワードを見つけながら、現在、地方都市が抱える中心市街地の活性化に向けた積極的な提案である。また、朔太郎の横顔や風神雷神をデザインに取込み、目を引く作品に仕上げている。農緑ベルトやアーケードの緑化の維持管理は、実現する上での課題が考えられることから、さらなる研鑽を期待したい。(高橋)

<ベスト8> No.11：埼玉県立春日部工業高等学校「小川に集うまち～地域産業の継承～」

埼玉北西部 秩父の山間部、荒川上流の地域において、過疎化による伝統技術の継承が危惧されるなか、地域の暮らしと特産物を通じた体験を通じて地域再生を図る小さなまちの提案である。

川のほとりで営まれる地域産業(店舗・畑)と山間部の日常的な住まいの具体的な使われ方や技術継承までのストーリーに加え、これら全てをつなぐ道をパブリックスペースとして位置づけ、一体化されたまちが問題の解決を図っていくという点について評価したい。また、計画背景の地域で抱える問題点の整理と地域性の調査分析が文章と写真で示され、発想のポイントを環境整備、商業・産業体験、住まいの配置、動線計画、空間構成という5つのダイアグラムにて丁寧に説明。中央に配された全体計画では、今回の趣旨が一目で伝わる大きさと色づかいで表現されています。さらに模型写真で空間構成が示されるなど、表現

にも抜かりの無い力作だと感じました。

ベスト8にて初期から注目の集まった最強豪校との対戦であったことが残念でならないが、着眼点から問題分析、解決提案、表現方法に至るまでトータルバランスのよい作品であったことは間違いない。来年以降の応募作品にも期待します。(関)

<ベスト8>No.14：神奈川県立神奈川工業高等学校「川沿いの四季を楽しむシェアハウス」

長屋のような低層共同住宅。河川としては、直線的すぎる場を選定したのはいかがだったか。もう少し曲がりくねった「自然」をイメージする「場」でも良かったのではないかと。数ある応募作品の中でも、相当の力量のあるものを感じた。

それは、公共空間の施設利用といった意味では、都市における共同空間にヒントを与えているということである。高速道路や鉄道の橋げたの下などの今後、活用の方策を考えるエキスも入っているということである。

あえて、力量のある作品という前提で以下をコメントしておきたい。

それは、発想は良いのだがプランが画一的。丁寧なプランが望まれる。同じプランばかりでなく、バリエーションがもっとあればもっと楽しい。より、魅力的な作品のためには、より、魅力的な断面すなわち構成がわかる全体的な横断面が欲しかった。書く事によって見えてくるものがあつたと思えるのだが。模型には、草木が茂り、豊かな自然景観をつくり出しているようだが、建築の断面図には、その表現がない。「川沿いの四季を楽しむ」という中の重要な要素である「自然」を明確に表現して欲しかった。大きな床几は季節を感じ得るにはすばらしい装置であるが、一方では、河川の氾濫等の危険も持ち得ていることを忘れてはいけない。安全と危険は背中合わせの側面的なことも提案欲しかった。(森崎)

<ベスト8>No.44：大分県立大分工業高等学校

「地域で暮らしたい しかし、地震が、津波が・・・そこで僕たちの決断」

2011年3月11日の東日本大震災における大きな被害状況の記憶はまだ新しい。その中で今回のコンペでは、本提案が唯一「津波」をテーマとして取り組んだ事例である。本提案は、自分の地域の特徴を把握し、津波被害の発生する可能性のある海から約3kmの敷地を対象としている。提案では、大きく3つ、「津波を逃がす」「津波を潰す」「津波を分散させる」というキーワードをもとに、各キーワードに即した具体的な対策提案をそれぞれ考えており、敷地に対する建物の配置などの工夫がなされている。規模の大きな津波の威力に対して本当にこの提案で流れを誘導できるか、など課題はまだ残るが、「津波」という大きな課題について建築の立場としてできることを考えている提案である。さらに、子供や高齢者を含む避難経路についての提案もあり、各人が考えなくてはならない身近な問題にも目を向けている。様々な視点から考えている提案であるが、一つの敷地内のみでの提案になっているのが、残念である。一つの区画だけではなく、もう少し周りも含んだ地域としての複合的な提案であると、より良いと思う。(永井)

<ベスト8>No.45：宮崎県立日向工業高等学校「やぐらのある暮らし」

日本古来からの建造物である「櫓(やぐら)」に注目した作品である。文献によると、木材などを高く積み上げた仮設や常設の建築物や構造物で見世物小屋や相撲、祭りの太鼓櫓・火の見櫓などの物見櫓等のものが一般的である。

テーマはすばらしく、刺激的なものなのに、地産地消の漁師の家である平面図がつまらない。ピアノや車など情報基地としての意図が平面に表現出来ていない。「模型の木」による建築造形は良。発想の豊かさや造形に対しての力量は目を見張る。しかし、建築空間を表現するには、今後の努力を期待したい。それは、櫓たる木材の積み上げや暫定的な「家」とそこにすむ漁師の生き様(普段の生活/漁師はここにサラリーマンのように住まないだろう。)を想定して頂きたかった。これらを思い浮かべる時、平面図は変化するはずである。また、方法としては、漁師の存在する「海」とそれを育む背景としての「森」の関係からのアプローチもあった。しかしながら、櫓は船の「ろ」意味も持つというのも漁師の家としたのに興味が持たれた。がんばってください。(森崎)

<奨励賞>No.1：北海道札幌工業高等学校「北の快適住まい」

アイヌの住宅「チセ」から発想した現代のかまくら。巧く積雪が活かしたら面白い。(高橋)

< 奨励賞 > No.2 : 青森県立青森工業高等学校高等学校

「地域の山をみんなで守プロジェクト」

ログの縦使いが面白い。屋根の納まりなどが少し心配。(森崎)

< 奨励賞 > No.4 : 宮城県古川工業高等学校「スローライフ・憧れの田舎暮らし 農家民宿 “結”」

スケッチがよく出来ている。なぜ白川郷なのか。(永井)

< 奨励賞 > No.5 : 秋田県立横手清陵学院高等学校「地域って何？つながりでしょ」

発想をより独創的な展開と表現をして欲しかった。(関)

< 奨励賞 > No.6 : 山形県立米沢工業高等学校「スマート LIFE ~時代を遡る未来型住宅~」

豪雪地帯で竪穴式住居から考えたユニークな提案です。(高橋)

< 奨励賞 > No.7 : 福島県立会津工業高等学校「栄町 Walk through...」

小道具としての様々なアイデアが盛り込まれているが、通り抜けのための工夫ともとらえにくい。少し、整理するとより効果的かも。(森崎)

< 奨励賞 > No.9 : 栃木県立宇都宮工業高等学校「きぶなと光のページェント」

「きぶな」の色彩と建築空間の関係がわからない。(永井)

< 奨励賞 > No.12 : 千葉県立市川工業高等学校「海をながめる暮らし」

着眼点と計画自体は良いが、各々が結びついていないように感じる。(関)

< 奨励賞 > No.16 : 長野県長野工業高等学校「野尻の家」

遊び心も大事にしながら、日常性を考えた具体化が必要です。(高橋)

< 奨励賞 > No.17 : 新潟県立上越総合技術高等学校「家族・近隣住民の交流そしてプライバシー（春夏秋冬における住環境機能の提案）」

個々人の生活プライバシーと共存社会のコミュニティ。

魅力は個の成立の上のコミュニティだと気づいた良い作品です。(森崎)

< 奨励賞 > No.18 : 静岡県立島田工業高等学校「切磋琢磨 目指せ！B-1 日本一」

朝ラーの職人同士の関係が見えない。(永井)

< 奨励賞 > No.22 : 富山県立高岡工芸高等学校「水郷～水と共に生きる～」

提案の水の活用方策についてより具体的に表現して欲しかったが、発想は面白い。(関)

< 奨励賞 > No.23 : 金沢市立工業高等学校「町がつくる家」

人が集まるような魅力ある建築デザインの提案が欲しい。(高橋)

< 奨励賞 > No.24 : 福井県立武生工業高等学校「People in the box」

若者のためのボックス型シェアリングハウス。

箱の中の夢や周辺環境との関係性（ロマン）が欲しい。(森崎)

< 奨励賞 > No.26 : 京都市立伏見工業高等学校

「舟入につくる小さな都 ~歴史薫る川床の家~」

川中に家屋を作ることと活性化の結びつきが見えない。(永井)

< 奨励賞 > No.27 : 大阪市立都島工業高等学校「S・M・E ~世代を繋げる3つの輪」

建築の主張が強すぎて、世代間交流の模索という発想が弱まってしまっている点が残念。プランはよく考え

られている。(関)

<奨励賞> No.28：兵庫県立豊岡総合高等学校「GBE house」

もう少し開放的かつ外部（地域）との関係を積極的に表現できればよかったのでは。(関)

<奨励賞> No.29：奈良県立吉野高等学校「吉野川を愛でる家」

吉野川との関係がより積極的に表現、身近に活用できる建築になれば。(森崎)

<奨励賞> No.30：和歌山県立和歌山工業高等学校「色の付いたペンシルハウス」

地域への色彩影響を考慮してほしい。(永井)

<奨励賞> No.31：鳥取県立鳥取工業高等学校「発電傘」

建築としての具体的提案が欲しい。雨が多い地域での着眼点及び傘のアイディアは面白い。

(関)

<奨励賞> No.34：広島県立福山工業高等学校「The egg of wish ~未来の福山のために~」

曲線が目を引きデザインですが、周辺との景観の調和を考える必要がある。(高橋)

<奨励賞> No.36：徳島県立徳島科学技術高等学校

「若者の集うシェアハウス～土間のある家～」

新しい土間の表現弱い。

若者が集まってくるしかけや居心地の良いと思える表現が欲しい。(森崎)

<奨励賞> No.37：香川県立多度津高等学校

「SHIKOKU88 物見やぐら～旅×空間＝出会い～」

建築的に成り立つのか。課題が多い。(永井)

<奨励賞> No.38：愛媛県立松山工業高等学校「いくぞ我らは首農集団！！」

4 軒の関係性が希薄なため、趣旨で書かれている展開がイメージできない。ストーリーをもう少し詰めて欲しかったが、表現としてはよくまとまっている。(関)

<奨励賞> No.40：大牟田高等学校「高齢者に豊かな空間を」

世代間の交流を図る意図は判りますが、各階中央部の空間の処理が不明確です。(高橋)

<奨励賞> No.41：佐賀県立佐賀工業高等学校「～水路に集う物語～街の駅「よってかんね」」

作品タイトルがやや残念。

敷地内空間づくりが巧み。水路等の外部空間がいい。(森崎)

<奨励賞> No.42：長崎県立長崎工業高等学校「よかよ 長崎、坂んまち」

もう少し建築的な工夫が欲しい。(永井)

<奨励賞> No.43：熊本県立熊本工業高等学校「ウッドデッキと屋根の家」

地域に対する思いや提案が弱い。建築の空間構成は上手くまとまっている。(関)

<奨励賞> No.46：鹿児島県立鹿児島工業高等学校「FLAG」

丹念に作成した個々のプランを関係づける提案が欲しかった。(高橋)

<奨励賞> No.47：沖縄県立浦添工業高等学校「時間と空間の共有」

沖縄らしさは表現されているが、ごく普通の住宅で終わっている。地域での関わり等の提案がほしい。(森崎)